

平成30年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

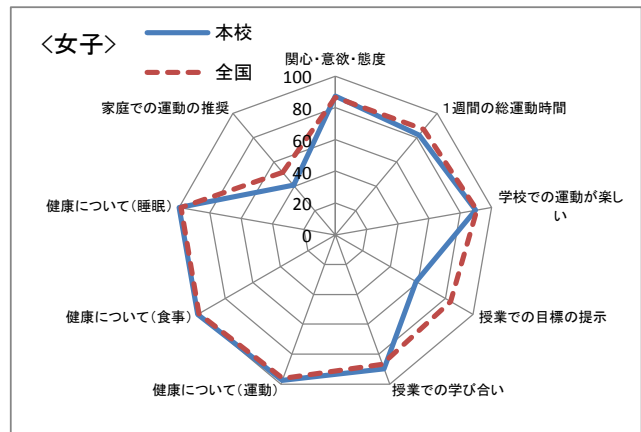
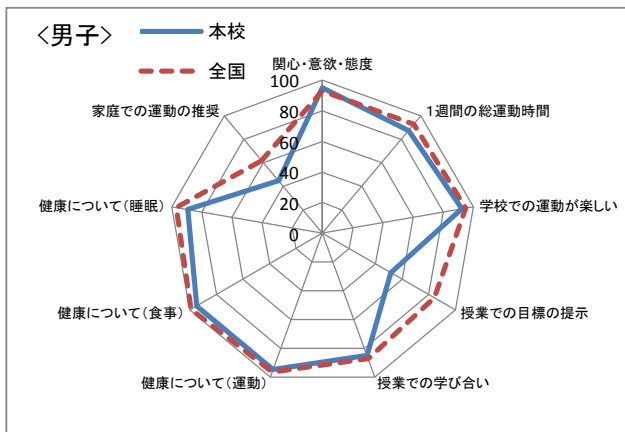
| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.54 | 19.95 | 33.31 | 42.10 | 52.15 | 9.37 | 152.24 | 22.15 | 54.21 |
| 本市 | 16.69 | 20.49 | 33.79 | 42.59 | 55.22 | 9.38 | 154.29 | 23.74 | 55.23 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

<女子>

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国 | 16.15 | 18.96 | 37.62 | 40.32 | 41.88 | 9.60 | 145.94 | 13.77 | 55.90 |
| 本市 | 16.24 | 19.41 | 37.96 | 40.62 | 44.39 | 9.61 | 147.43 | 13.93 | 56.64 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- 専科教員が中心となって、体育の授業での「ジャンプアップ運動」などを積極的に取り入れることができ、児童の運動をすることに対する関心意欲が高まった。
- 「学校での体育の授業が楽しい」と答えた児童が男女とも90%であり、「教え合う」という話し合いの授業が進められている。
- 男女とも、授業での目標の指示が不十分であること課題として明らかになった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科の授業においても、児童の運動に対する関心意欲、目標、見通しをもたせるために「わかる授業づくり5つのポイント」の実践の徹底を図っていく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

1か月に1回、「パワーアッププログラム」として全員昼休み各種の運動に取り組む活動をしてきた。しかし、「体育の授業以外に運動する時間が平均以下」ということから、取り組みの頻度を高める必要がある。